

# 刈谷田川利活用検討委員会通信 vol.2

～市民、新潟県、長岡市、見附市が協働して、刈谷田川ショートカット部の利用構想を検討しています～

編集・発行／新潟県長岡地域振興局（地域整備部計画調整課） 発行日／平成 21 年 4 月 1日

## 第2回刈谷田川利活用検討委員会の概要

平成21年3月11日（水）19:00～ 長岡市中之島公民館

～利活用にむけた具体的なイメージを膨らませよう～

第1回の検討委員会では、様々な意見を共有しながら、大きな方向性を見つけ出すことから始めました。第2回の検討委員会は、前回の検討結果から、市民委員の皆さんがどのような利活用のあり方を望んでいるかをまとめて、大きな柱となる機能や要素のイメージについて確認しました。その後、3班に分かれてワークショップを行い、最後にグループごとの結果を発表してもらいました。



市民委員15名（長岡市7名・見附市8名）  
新潟県長岡地域振興局4名、長岡市2名、見附市3名  
NPO 法人地域交流センター（事務局）3名  
見附新聞（取材）1名  
※取材の様子は平成21年3月19日の記事で紹介しています

### ■プログラム

- ①開会のあいさつ
- ②第1回検討委員会のおさらい（整備方針イメージマッピング）
- ③グループワーク（3班に分かれてワークショップ）
- ④グループごとの発表とまとめ
- ⑤その他連絡事項など

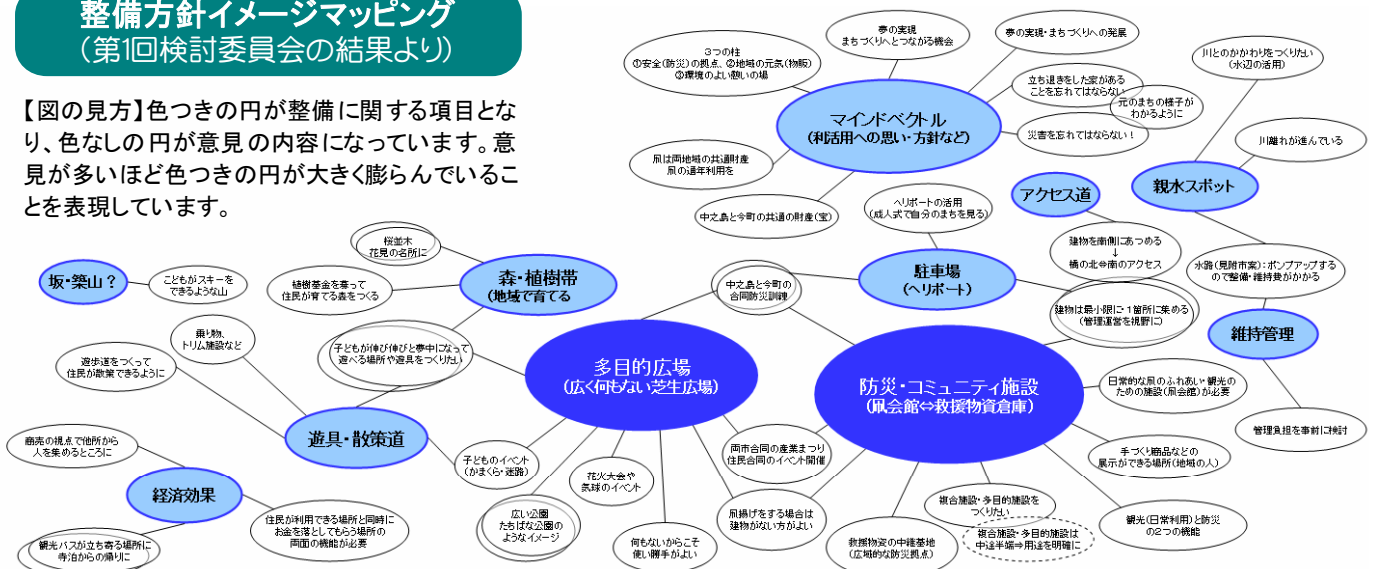
## 検討委員会（ワークショップ）の結果レポート

### 前回のまとめと確認（整備方針イメージ）

前回の検討委員会で市民委員の皆さんから出たそれぞれの意見を内容ごとにまとめ、「整備する場合の機能や要素としては」という視点で再整理しました。その結果が以下の「整備方針イメージマッピング」です。この図をご覧頂くと、皆さんの関心は「広く何もない広場（多目的広場）」と「防災・コミュニティ施設（風会館・救援物資倉庫）」に集中していることがわかります。まず市民委員全員でこの2本の柱が中心になっていることを確認し、概ね了解を得られたところで、次の3班に分かれたグループごとの検討に入りました。

### 整備方針イメージマッピング （第1回検討委員会の結果より）

【図の見方】色つきの円が整備に関する項目となり、色なしの円が意見の内容になっています。意見が多いほど色つきの円が大きく膨らんでいることを表現しています。



## グループワーク（3班にわかれて）の結果

前回は2班にわかれてグループワークを行ないましたが、話し足りないという雰囲気だったので第2回検討委員会からは3班にわかれて行ないました。前段の「整備方針イメージマッピング」で確認した内容をふまえて、刈谷田川ショートカット部（3ha）の図面上にある程度の空間的なイメージを描き込みながら検討を行ないました。

### グループ1のまとめ



#### 《利活用のコンセプトなど》

住民が「この地域で暮らしたい」と思える1つの要素にしたい／中之島と今町は凧と刈谷田川が大事／通年型で凧にふれあうことができる場所にしたい／子どもの凧離れが進んでいる、小さい頃からいつも凧にふれられる機会が必要

#### 《ヘリポート》

必ず必要な機能として位置づけたい／普段は駐車場として使えないものか⇒常時もヘリポートとして確保する必要があるがイベントなどの臨時駐車場として使える／広場をそのままヘリポートとして使えないか／建物の屋上はどうか⇒建物の構造を強化すると建築費がかかる

#### 《多目的広場》

子どもが楽しめる場所にしたい／人が多く来る場所にしたい／中之島と今町で防災訓練ができる場所にしたい／何もない⇒もっとも便利(物資のストック場としても使える)／究極は芝と桜の広場で良い／広場を可能な限り広く取る⇒位置的なことと言えば敷地の真ん中だろうか／住民が育てる森⇒参加のしくみを検討する必要がある

#### 《南側の三角地帯の使い方》

この場所に建物を集めるという考えはどうか⇒基本的には水防訓練の場所として利用したい(県)／道路をくぐってアクセスできないので施設やモニュメントなどは作れない

#### 《凧会館／救援物資中継基地・備蓄倉庫》

##### 《構造や設備などのイメージ》

凧を保管する装置⇒(スライド式の床など)設計の工夫で期間や用途を気にせず多目的に使える施設になる／大きな作業場に移動間仕切り機能をつける⇒教室や物産販売できるよう小スペースで区切る／体育館以上の大きさ⇒救援物資の一時保管場所の利用を想定／体育館の広さでは大きい⇒維持管理が大変になる・平時の利用が優先／建物全部が囲われていなくても芝の上に屋根だけある施設でも十分機能する(柏崎のゲートボール場の例)

##### 《使い方の問題・課題・提案》

■**凧の製作とその他の活用方法(平時の利用)** 凧の製作場が必要(今町⇒作業場の老朽化が進んでいる・中之島⇒製作途中で移動できないため町内の体育館は利用できない)／凧の製作だけでは一年のうち限られた期間しか利用しなくなる(限られた人だけの利用になる)

■**救援物資中継基地・備蓄倉庫(災害時の利用)** 備蓄基地として使うと住民が安心できる／地域の中で一番初めに物資をさばく中継基地にしたい(一度に物資を街中に入れたい)／物資の倉庫⇒日常的な利用方法を工夫して経費を安くする／備蓄と救援物資とは使い方が大きく異なる／行政を越えて共通で使える防災基地となると県が作ってはどうか⇒県は整備する予定はない／物資を置かずに各地区へ運ぶためのコントロール機能になれば良い／中途半端な利用方法にすると管理が大変になる

#### 発表内容

発表者: 皆川さん・味方さん

終始、凧会館の議論をしました。やはり、中之島と今町の共通点は凧だということを実感しました。凧の作業ができるような大きな施設が必要ですがその他の利用も…という話をしました。広場については、桜並木をつくて桜祭りで沢山の人が来るような場所にしたいという意見もありました。

